

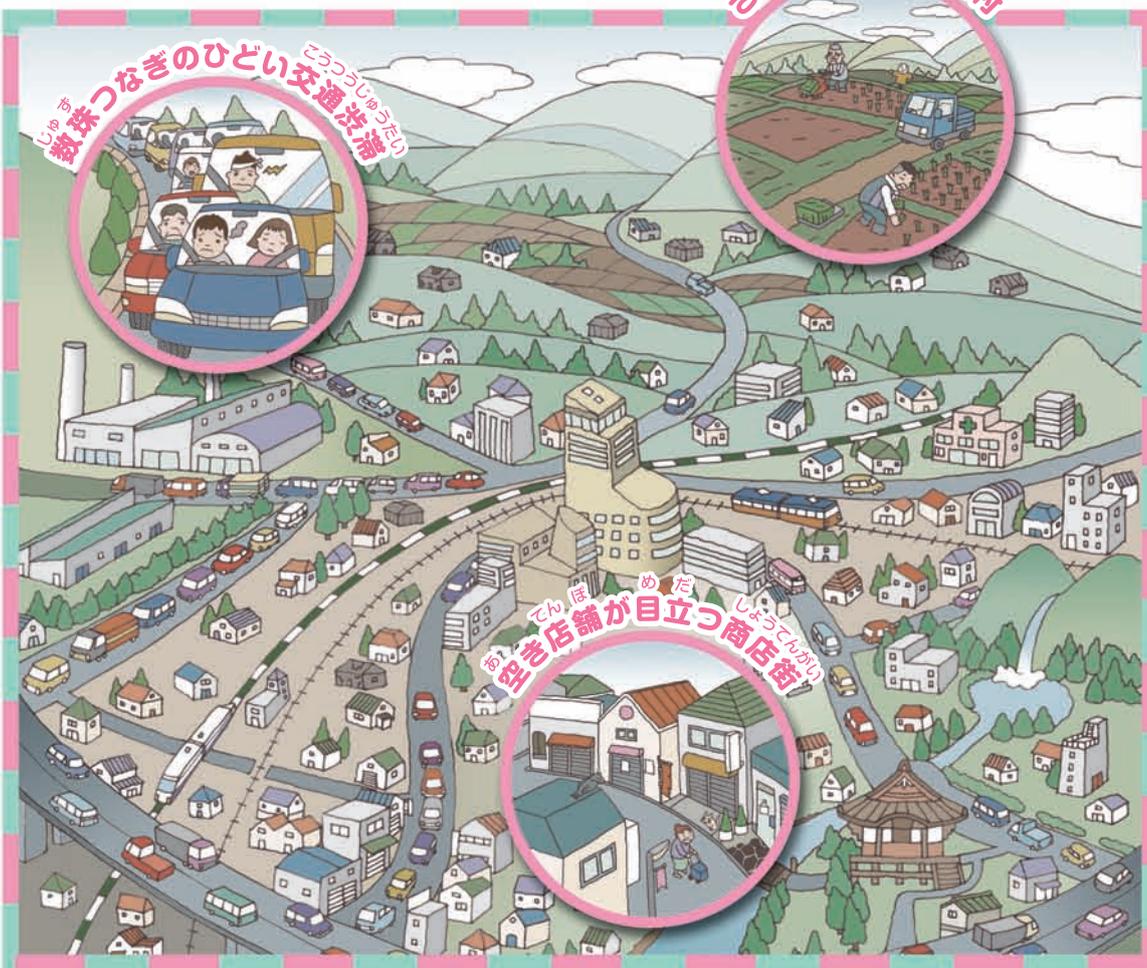
目指すまちの「つくり」

「ネットワーク型コンパクトシティ」って何？

わたしが暮らすまちは、人口の増加や経済の発展など、これまでの時代の移り変わりの中、市街地をだんだんと拡大させてきた。そして、クルマに頼った生活が根付いていったんじゃ。しかし、これから、人口がだんだんと減っていき、クルマの運転が大変なお年寄りが多くなっていったら…。きっとこのままのまちでは暮らしにくくなってしまおうじゃろう。

だから、まちの形を長い時間をかけて、だんだんと暮らしやすい形に変えていくことが必要になるのだが、その望ましい姿が「ネットワーク型コンパクトシティ」なんじゃ。それには、むやみに市街地を広げずに、中心市街地をはじめ、それぞれの地域の拠点の働きや魅力を高め、公共交通をはじめとした交通ネットワークを充実させ、お互いに行き来しやすくすることが大事なんじゃな。

このままいくと・・・



宇都宮の

いま
今のまちの姿
(平成17年)

平成27年頃には

平成34年には・・・



みんなも2つのまちの「違い」を考えてみよう！

さつきちゃん 博士!左のまちは、みんながいろいろな所に住んでいて、クルマで行きたい所に行っているから、とってもいいまちですね。

はかせ博士 さつきちゃん。よく見てごらん。左のまちは人口が減って、空き家や空き店舗が目立つじゃろ。クルマは渋滞していて地球環境にも悪いし、クルマがないと行きたい所にいけないんじゃないかな。それに農村も荒れていて、全体的にまちに元気がないじゃろ。

さつきちゃん ほんとうみぎ本当だ。右のまちは、クルマがなくても公共交通を使って便利に暮らせそうだし、楽しそうな場所が多いね。街なかにも集いの場所や緑があって、農村もいきいきしていて、人口が減っても、まち全体が活気にあふれているね。

はかせ博士 そうそう。分かったようじゃな。右のまちの方がメリハリがあってバランスが良いじゃろ。みんなでこういう姿を心がけて、人口が減少しても、ますます魅力のあるまちをつくっていくことが大切じゃな。

